業務名：＊＊港＊＊＊＊地区＊＊＊岸壁耐震性能照査

（報告書タイトル：＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊）　　　　　　　　　　　　　　記入日時：　　年　月　日　 記入者：＊＊

解析対象施設名：＊＊港＊＊＊＊地区＊＊＊岸壁

●施設の種類： 重力式岸壁（○）、矢板式岸壁（　）、桟橋式（杭の同時解析）（　）

盛土構造（　）、傾斜護岸（　）、重力式防波堤（　）、沈埋構造（　）

その他（　）：具体的に

●入力地震動： 海溝型地震波 （○）（対象地震：東南海・南海地震　　　）

内陸活断層地震波 （　）（対象地震：　　　　　　　　　　　）

M6.5の直下地震波 （　）

その他の観測波 （　）（具体的に　　　　　　　　　　　　）

正弦波　（　）

（備考：工学的基盤の2E波を＊＊＊でモデル下端の2E波に変換　　）

●時間ステップ： 0.01秒（○）、その他（　　）：具体的に

●解析ステップ数： 2000　ステップ（解析時間：　　　20　　秒）

●地盤物性の設定の根拠： *N*値と細粒分による簡易パラメータ（従来法）（　）

*N*値と細粒分による簡易パラメータ（tmp7対応版）（　）、液状化強度曲線へのフィッティング（○）

その他（　　）：具体的に

●FLIPのバージョン： ver.4.3

●変相線を超えた応力空間におけるせん断仕事の負のダイレタンシーへの寄与評価法：

従来法（○）、tmp3法（　）、tmp7法（　）（注：tmp3法、tmp7法はver.5.0以降で選択可）

●応力ひずみ関係の非線形反復計算法の選択： 従来型（○）、改良型（ver.5.0以降で選択可）（　）

●初期応力状態の評価法： １段階自重解析法（○）、多段階自重解析法（ver.4.2.5以降で選択可能）（　）

●レーレー減衰の与え方： 最大応答変位分布が変化しなくなる臨界の値（○）

固有周期で一定の減衰に相当する値（　）（　　%相当）

過去の被災事例の再現結果に基づき設定（　）、SHAKEの解析結果との比較に基づき設定（　）

その他（　）：具体的に

●レーレー減衰の時刻毎の更新： 一定値（○）、時刻毎の初期接線剛性より更新（　）、時刻毎の接線剛性より更新（　）

●ジョイント要素のレーレー減衰： レーレー減衰を考慮しない（ver.4.2以降で選択可能）（　）、全体系と同じ値（○）

その他（　）：具体的に

●杭-地盤系の相互作用のモデル化： 杭は壁状にモデル化（　）、杭-地盤相互作用バネ（ver5.1.6以降で選択可）（　）

その他（○）：具体的に　　　杭無し

●捨石の材料定数： c= 0kPa、f = 40度（　）、

 c = 20kPa、f =35度（負圧は負担しない）（ver.4.3以降で選択可）（○）

その他（　）：具体的に

●捨石部の間隙水の体積剛性： 従来（2.2×10-6kPa）（　）、改良法（上記の1/100程度）（○）

場所により従来法と改良法の使い分け（　）

その他（　）：具体的に

●底面境界の設定： 固定境界（　）、粘性境界（○）（Vp：1600　m/s）（Vs：313　m/s）

その他（　）：具体的に

●側方境界の設定： 粘性境界と反力境界の併用（ver.4.3以降で選択可）（　）

粘性境界（○）（Vp： 1445～ 1575 m/s）（Vs： 53～ 252 m/s）

その他（　）：具体的に

●変位出力の基準点： 2E波入力点からの相対変位（　）、直下の粘性境界上の節点からの相対変位（○）、

粘性境界上の特定点からの相対変位（　）（対象Node：　　　）

その他（　）：具体的に

●海水面の与え方： L.W.L.（○）、H.W.L（　）

その他（　）：具体的に

●大変形の考え方： 従来法（微小ひずみ理論）（○）、簡易大変形解析機能（ver.4.4以降で選択可）（　）

＜解析結果添付資料の有無＞ 解析断面図（○）、土質柱状図（　）、地盤物性一覧（○）、減衰パラメータ設定根拠（○）

残留変形図（○）、最大過剰間隙水圧比図（○）、変形の時刻歴（○）

その他：具体的に

＜入力データの添付の有無＞ 入力データ（CD-ROM）：静的解析（○）、自由地盤解析（○）、動的解析（○）、地震動（　）

その他：具体的に

＜その他、解析結果の解釈にあたっての留意点＞ ここに示したものは記入例である